

# 篠田桃紅美術空間からのお知らせ

## 「桃紅水墨水のすがた」展

関市立篠田桃紅美術空間では、ぎふ清流国体・ぎふ清流大会の開催に併せて、水をテーマに篠田桃紅作品を展示しています。

桃紅は、1913年に中国の大連で生まれ、東京で育ちましたが、父が岐阜の長良川に近い芥見の生まれであるため、桃紅の本籍地も岐阜にあります。水墨を仕事とする桃紅にとって、こころのふるさとである岐阜への思いは水につながることが多く、清流長良川の水をよく思い出すと語っています。特に長良川の鵜飼について、1966年ごろ岐阜を旅した折、「鵜船が「動」ならば、漆黒の金華山と夜目にも白い河原は、深い「静」を保つて川に迫っている。(中略)不動のものの中で燃え流れる火と水、それは二十



掲載図版 「火と水」2009年



長良川の鵜飼と桃紅 1966年撮影

【照会先】 篠田桃紅美術空間 (市役所7階) ☎23-7756

年来、私の心にもゆれつづけているものだ。」とつづけています。

今展では、作品の中にあらわれた、桃紅の心にゆれ続けている「水」のさまざまな表情に迫り、桃紅水墨の魅力を紹介しています。

- ◆ 会期：10月24日(水)まで
- ◆ 入館料：高校生以上300円、中学生以下無料
- ◆ 休館日：月曜日(10月8日(祝月)を除く)、10月9日(火)
- ◆ 開館時間：午前9時～午後4時30分
- ◆ 関連イベント：10月7日(日) 午前11時～「ヘルマン・メンシングハウス ヴィオラ・コンサート」

ひとひと  
女と男

# ともに自分らしく生きよう

男女共同  
参画社会



## vol.97 意識が変わる

今年実施されたセミナーには、若い世代(結婚前や子育て中)の方が多く参加されました。さんかくサポーターも性別、年齢がさまざまですが、若い世代の方と意見交換ができ、大変良い機会でした。ここで、少し興味深い意見や考え方をご紹介します。

現在の若い世代では、「花嫁修業ならぬ花婿修業が必要になっている」「料理や家事などの簡単なことは、結婚前の男性の必須条件である」「若い時は家事など見向きもしなかった夫が、年を重ねるに従い協力してくれるようになった」そして、「男女共同参画を考える以前に築いておかなければならない良好な人間関係・家族関係などについて、いま一度見つめ直す必要がある」というような考え方です。

今後もしろいろな機会に、世代間を超えて意見を交換することで双方の意識がより進化していくと考えます。

さんかくサポーター<J>



照会先 さんかくサポーター事務局 (市民協働課内) ☎23-6831